
2011年度(第89期)事業報告書 記載用紙

技術と社会 部門：

部門長 緒方正則，他 35 名，運営委員会開催 2 回，総務委員会開催 4 回（その他メール審議 4 回）

- 1) 総務委員会の下に設置された 3 委員会および機械遺産委員会，研究会，技術ロードマップ委員会委員，各担当委員で部門運営にあたった。
- 2) No. 11-1 2011 年度年次大会（9 月 11-14 日，東京工業大学大岡山キャンパス）において，OS 3 件（部門単独），WS 4 件（部門単独 3 件，他部門との共催 1 件）を企画・開催した。OS の内訳は，GS200 一般講演 2 件，OS201 技術教育・工学教育 17 件，OS201 機械技術史・工学史 8 件である。また，各実行組織の報告事項として後述するが，部門内に設置された「機械遺産委員会」によるパネル展示を含め，4 件の市民対象行事を企画・開催した。9 月 12 日に部門同好会を都内で開催し，16 名が参加した。なお一般講演は G200-011 の講演者 1 名が欠席した。
- 3) No. 11-56 部門講演会「技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる」（2011 年 11 月 19 日，琉球大学工学部）を九州支部沖縄地区と合同で開催した。日本設計工学会と共催の行事である。技術教育・工学教育，機械技術史・工学史，設計教育・CAD 教育，エネルギー教育・環境教育，沖縄の特色ある研究の 5 つの OS と特別セッション「沖縄の戦後技術史と新たな取り組み」を設け，39 件の講演が行われ，70 名が参加した。
- 4) No. 11-57 見学会「沖縄地区の産業史を訪ねて」（2011 年 11 月 20 日，沖縄）を九州支部沖縄地区と合同で開催し，25 名が参加した。2011 年 12 月発行のニュースレターにて報告がなされた。
- 5) 会誌 2012 年 8 月号「機械工学年鑑 第 22 章」について，部門長の申請により 1 頁の追加配分を受け，出版委員会の業務を代行する副部門長が構成を定めて，3 頁分の執筆分担を行った。
- 6) 当部門から吉田敬介委員を，本会イノベーションセンターの技術ロードマップ委員会に委員として派遣し，本会の運営活動に協力した。
- 7) 総務委員会は，日本産業技術教育学会主催の「第 14 回エネルギー利用技術作品コンテスト」の第 2 次審査委員会（2011 年 10 月 26 日，北海道教育大学旭川校）に審査員を 1 名派遣した。
- 8) 総務委員会は，東日本大震災調査提言分科会のメンバーとして，「WG 4：被災地周辺の交通・物流分析」に小野寺英輝（岩手大学）と中嶋秀朗（千葉工業大学），「WG 6：本会が作成している原発関連の維持規格と事故状況との関連」に高田 一（横浜国立大学），「WG 7：地震、原発事故等に対する危機管理」に緒方正則（関西大学）佐藤健吉（千葉大学）の 5 名を推薦した。
- 9) 総務委員会は，東日本大震災調査提言分科会の長期的視点からの提言を作成する活動のメンバーとして，「① 将来のエネルギー源・エネルギー利用に関する定量的検討評価と提言」に星朗（一関工業高等専門学校），「④ 工学を社会に対して適正に説明する方法とそのための機械技術者の人材育成」に加藤義隆（大分大学）の 2 名を推薦した。
- 10) 広報委員会は，2011 年 8 月 7 日付けで部門ニュースレター（NL）No. 25 を，さらに 2011 年 12 月 31 日付で NL の No. 26 号を部門ホームページ上に発行した。
- 11) 広報委員会は，年間を通してホームページ管理を行い，最新情報の更新（後述 41, 42 など）に努めた。
- 12) 機械遺産委員会は，2011 年度機械遺産認定式典（8 月 6 日，大阪市の科学技術館）に出席し，委員長が認定機械遺産 7 件を報告し，開催に協力した。
- 13) 機械遺産委員会は，2011 年認定機械遺産候補選定のための会議を 2010 年に続いて 5 回（第 2 回 2011 年 1 月 7 日，第 3 回 3 月 14 日，第 4 回 3 月 29 日，第 5 回 5 月 28 日，

第6回8月6日)開催した。また2012年認定機械遺産候補の選定作業のため3回(第1回2011年10月22日,第2回12月15日,第3回2012年3月5日)の会議を開催した。

- 14) 機械遺産委員会は、機械遺産監修委員会(2011年4月14日)において、2011年認定機械遺産の最終答申を行い、その諮問を受けた。
- 15) 機械遺産委員会は、2011年「機械の日」実行委員会に3回(第3回1月13日,第4回3月18日,第5回7月9日),2012年「機械の日」実行委員会に1回(1月5日)出席し、機械遺産候補選定進行状況の概要と年次大会における市民開放行事としての機械遺産パネル展示の実施について報告した。
- 16) 機械遺産委員会は、2011年度年次大会(東京工業大学大岡山キャンパス)において、市民対象行事(市民フォーラム)として9月11日より14日まで認定機械遺産50件のパネル展示を実施した。
- 17) 機械遺産委員会は、2011年度年次大会(東京工業大学大岡山キャンパス)において、ワークショップWS20300「機械遺産の保存活用の意義」,WS20400「産業考古学シリーズ」,WS20500「戦後の技術開発史を語る」の3件を企画・開催し、6件の講演がなされた。
- 18) 表彰委員会が中心となり、2011年度部門講演会(琉球大学工学部)において勝田正文氏(早稲田大学教授)への2010年度部門功績賞の贈賞を行った。
- 19) 表彰委員会は、2011年度部門功績賞2件と部門一般表彰として優秀講演論文表彰2件について審議中である。
- 20) 旧技術と社会問題委員会関係者が中心となり、イブニングセミナーを3月30日,4月27日,5月25日,6月29日,7月29日,8月31日,9月28日,10月26日,11月30日,12月21日,2012年1月25日の11回実施した。会場は、これまで勝田正文氏の配慮と尽力により無償で早稲田大学工学部にて開催してきたが、7月以降は早稲田大学工学部が耐震補強工事の為に会場を確保できなくなり、その後は明治大学お茶の水キャンパスにて開催している。3月30日は、震災直後で有ったが参加者の安全確保をして開催した。12月21日のイブニングセミナーでは原子炉格納容器の設計技術者の講演があり、これまで最高の110名が参加した。
- 21) 旧技術倫理委員会関係者は、6月11日と11月12日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」をキャンパス・イノベーションセンター(東京・田町)にて企画・開催した。それぞれ11名,6名の参加者があった。
- 22) 旧知的財産権委員会関係者は、年次大会(9月12日,東京工業大学大岡山キャンパス)においてWS「知財の理想(たてまえ)と現実のギャップ」を開催した。5名の話題提供を行った。
- 23) 旧知的財産権委員会関係者は、2012年度関東支部第18期総会講演会にWSを企画するため、10月14日に打合せを行った。
- 24) 人機能支援の工学研究会では、年次大会(9月12日,東京工業大学キャンパス)においてWS20200「高齢者リハビリにおける工学的アプローチ」を開催し、4名の話題提供を行った。
- 25) 人機能支援の工学研究会では、年次大会(9月12日,東京工業大学キャンパス)において、5部門の合同企画JS「ライフサポート」の実行に協力した。
- 26) 旧技術倫理委員会を受けて、エンジニアリングリスク研究会が11月1日に設置された。
- 27) エンジニアリングリスク研究会は、11月28日に研究会を開催した。
- 28) ブルネル・スピリット研究会は、ものづくりへの挑戦心と情熱を世間に広めるため、11月に「ロータリー・エンジン開発」,12月に「構造芸術の設計開発のスピリット」,「日本の機械遺産」について、都内で研究会を3回開催した。
- 29) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、6月4日に通算で2回目の研究会を開催した。学部学生から2件の話題提供があり、また低温度差スターリングエンジン競技会・発表会について検討がなされた。

- 30) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、2011 年度年次大会（東京工業大学 大岡山キャンパス）において、9 月 11 日から 14 日にかけて市民対象行事として「市民が作るスターリングエンジンのポスター展示」を実施した。2011 年 12 月発行のニューズレターにて報告がなされた。
- 31) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、2011 年度年次大会（東京工業大学 大岡山キャンパス）において、9 月 11 日から 14 日にかけて市民対象行事として「もの作りを含む段階に応じた技術者教育」を開催し、エンジンシステム部門が設置する「スターリングサイクル機器を題材にした実践的技術者教育に関する研究会」の協力を得て 4 件の講演を行った。講演者等スタッフを除き 22 名の参加者があった。2011 年 12 月発行のニューズレターにて報告がなされた。
- 32) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は、大分大学において、11 月 5 日に第 1 回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会を開催した。2 件の参考出品を含む 8 組の競技参加があり、21 名が出席者した。本行事については 2011 年 12 月発行のニューズレターにて報告がなされた。
- 33) 当部門が岩手大学地域連携推進センターとの共催により「第 4 回新☆エネルギーコンテスト」（2011 年 11 月 12 日、盛岡市産学官連携研究センター）を開催し、これに併せて「新☆エネルギーコンテスト」ホームページ（部門ホームページからリンク）の立ち上げや、イベントへの協賛（賞品提供及び審査）企業確保に関する活動を行い、4 社の協賛を得た。参加作品は 10 作品で、当日の参加者は 30 人であった。次年は日本大学工学部（郡山）を会場に開催することが決定した。本行事については 2011 年 12 月発行のニューズレターにて報告がなされた。
- 34) 模型ソーラーカー作りを通して学ぶ再生可能エネルギー学習会（2011 年 11 月 19 日、琉球大学工学部）を開催し、模型ソーラーカーの工作・実験と再生可能エネルギーに関する学習を通して、3・11 東日本大震災 以後の日本のエネルギーの在り方について考える機会とした。講師及び学生スタッフ等を除き小・中学生及び保護者ら 10 名の参加者があった。
- 35) 東海支部総会講演会（2011 年 3 月 15 日、豊橋技術科学大学）において、技術と社会部門のセッションを設け、14 件の講演を行い、ミニシンポジウム「技術文化を考える」を開催した。
- 36) 九州支部総会講演会（2011 年 3 月 17 日、九州大学）において、技術と社会部門のセッションを設け、5 件の講演を行った。
- 37) 技術教育・工学教育研究会は、関東支部 第 18 期総会講演会（2012 年 3 月 10 日、日本大学 生産工学部津田沼キャンパス）において OS 技術教育・工学教育を開設し、13 件の講演があった。
- 38) 旧知的財産権委員会関係者は、関東支部第 18 期総会講演会（2012 年 3 月 10 日、日本大学 生産工学部津田沼キャンパス）において WS 知的財産権を設け、「進化した知的財産権」のテーマで 2 件の講演を行った。
- 39) 部門連携活動として、交通・物流部門との合同見学会と意見交換会を 1 回（2012 年 3 月 9 日、コマツテクノセンター、静岡県伊豆市）実施した。対象者は総務委員会、部門設置研究会の関係者に限定した。
- 40) 関西支部 第 87 期定時総会・講演会（2012 年 3 月 16 日、関西大学千里山キャンパス）において、GS-20 技術と社会で 3 件の機械技術史・工学史の講演を行った。
- 41) 広報委員会は、中部産遺産研究会シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第 30 回「産業遺産研究の歴史と現状を考える」（2012 年 2 月 26 日、名古屋市）の学会後援行事をウェブサイトに掲載した。
- 42) 産業考古学会主催・日本機械学会技術と社会部門共催（2012 年 1 月 13 日、東急車輛製造横浜製作所）の「ステンレス車両発祥の地」記念碑建立除幕式で、部門長が祝辞を述べ、テープカットを行った。記念座談会「ステンレス車両の黎明期（1958-1980）を語る」には表彰委員長も参加した。
- 43) 広報委員会は産業考古学会との共催行事（上記 42）をウェブサイトに掲載した。

- 44) 日本技術史教育学会が開催する第9回機械設計・機械技術史国際会議 ICHMTMD 2012 (3月23-25日, 台南市, 台湾国立成功大学) に協賛を行った.
- 45) 技術教育・工学教育研究会は, 2011年度年次大会 (東京工業大学 大岡山キャンパス) の市民対象行事として「青年の職業的自立と技術教育」を企画・開催し, 4件の講演がなされた.
-

〔所属研究会〕

- A-TS 20-14 人機能支援の工学研究会
主査 高田一 幹事 村田良美
- A-TS 20-15 ブルネル・スピリット研究会
主査 佐藤建吉 幹事 与儀博
- A-TS 20-16 スターリングエンジンを活用した工学教育研究会
主査 加藤義隆 幹事 吉田敬介
- A-TS 20-17 技術教育・工学教育研究会
主査 門田和雄 幹事 渡辺辰郎
- A-TS 20-18 エンジニアリングリスク研究会
主査 高田一 幹事 村田良美